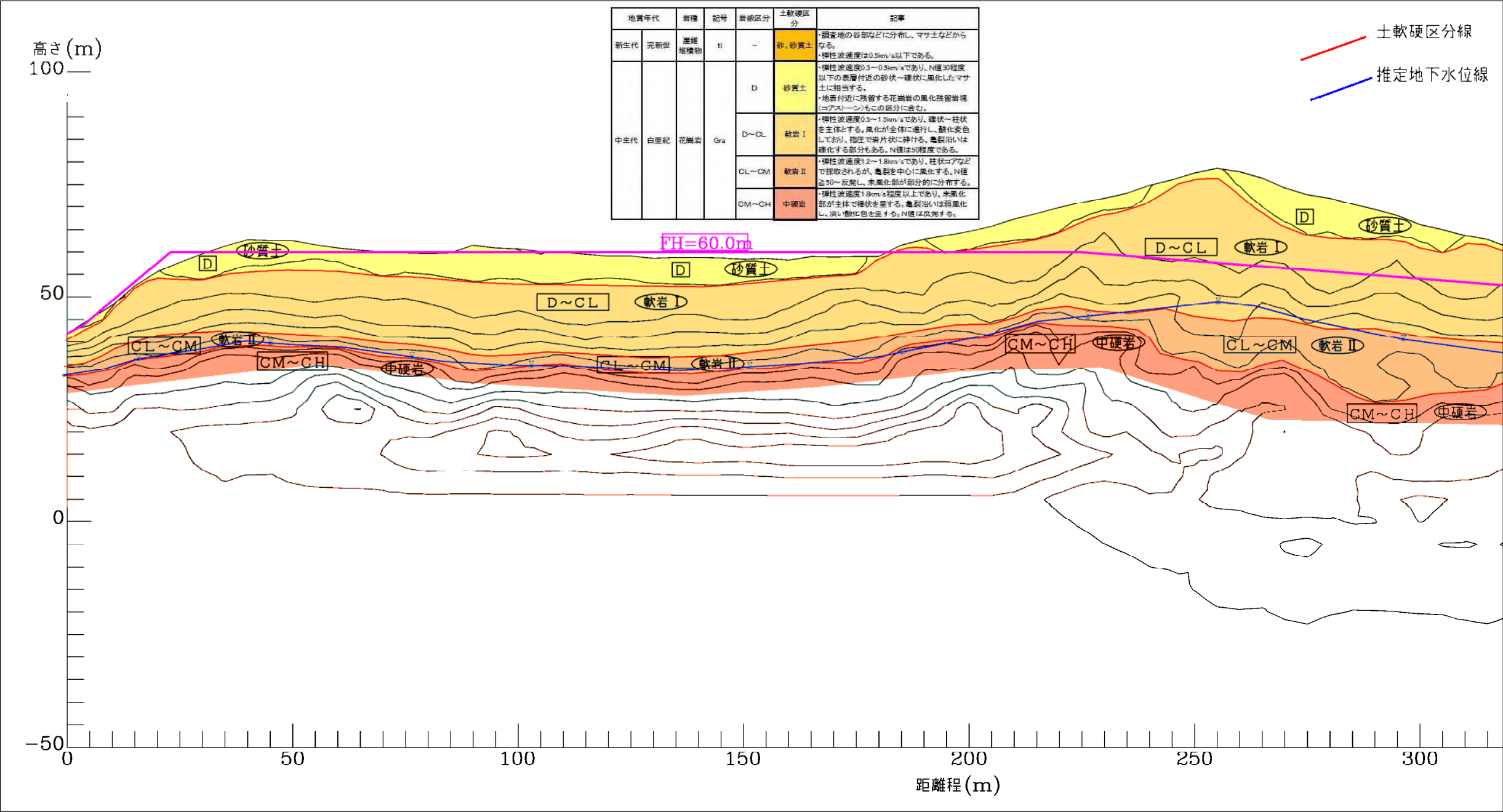
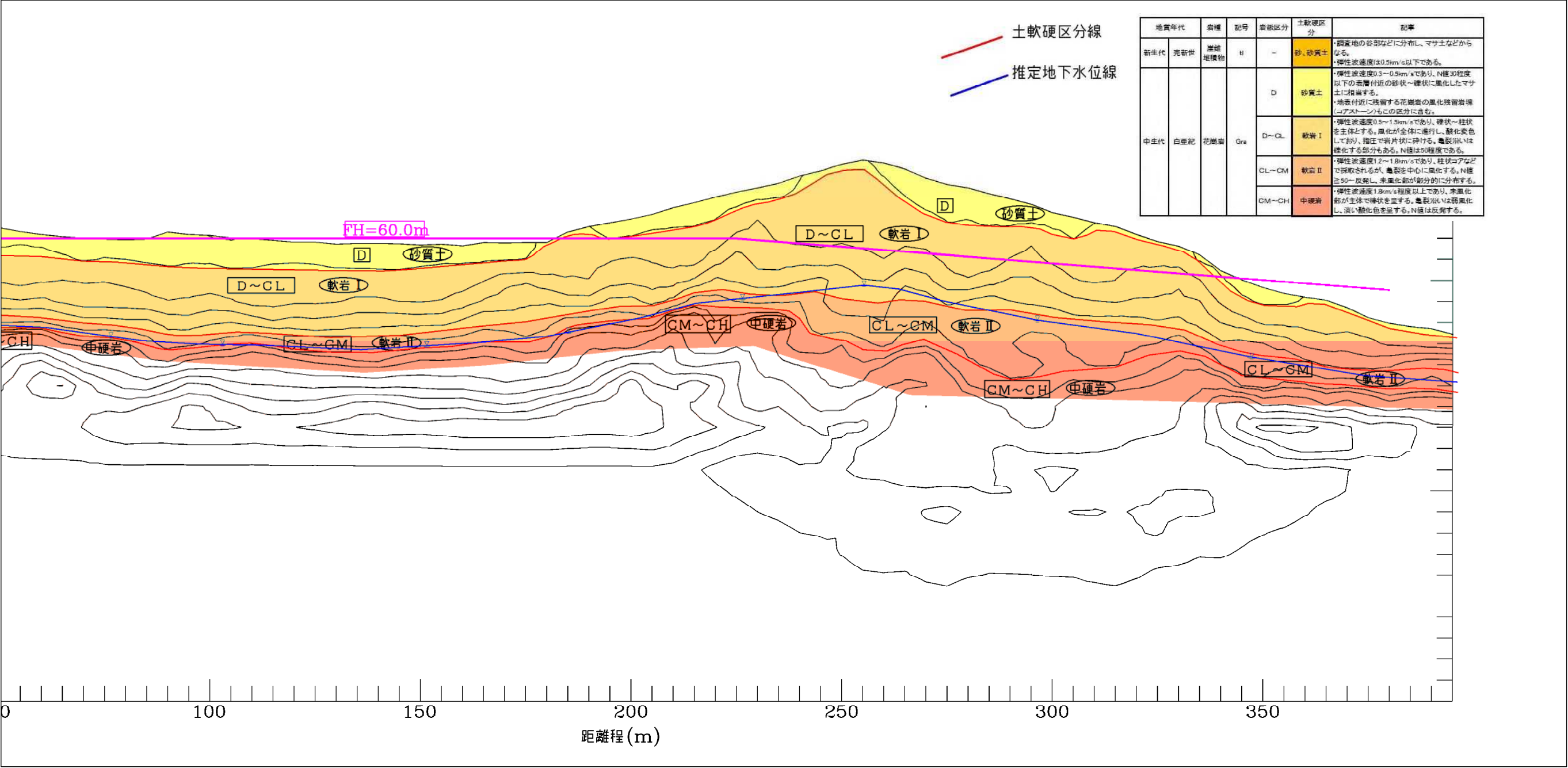


弾性波探査に基づく想定土軟硬断面図

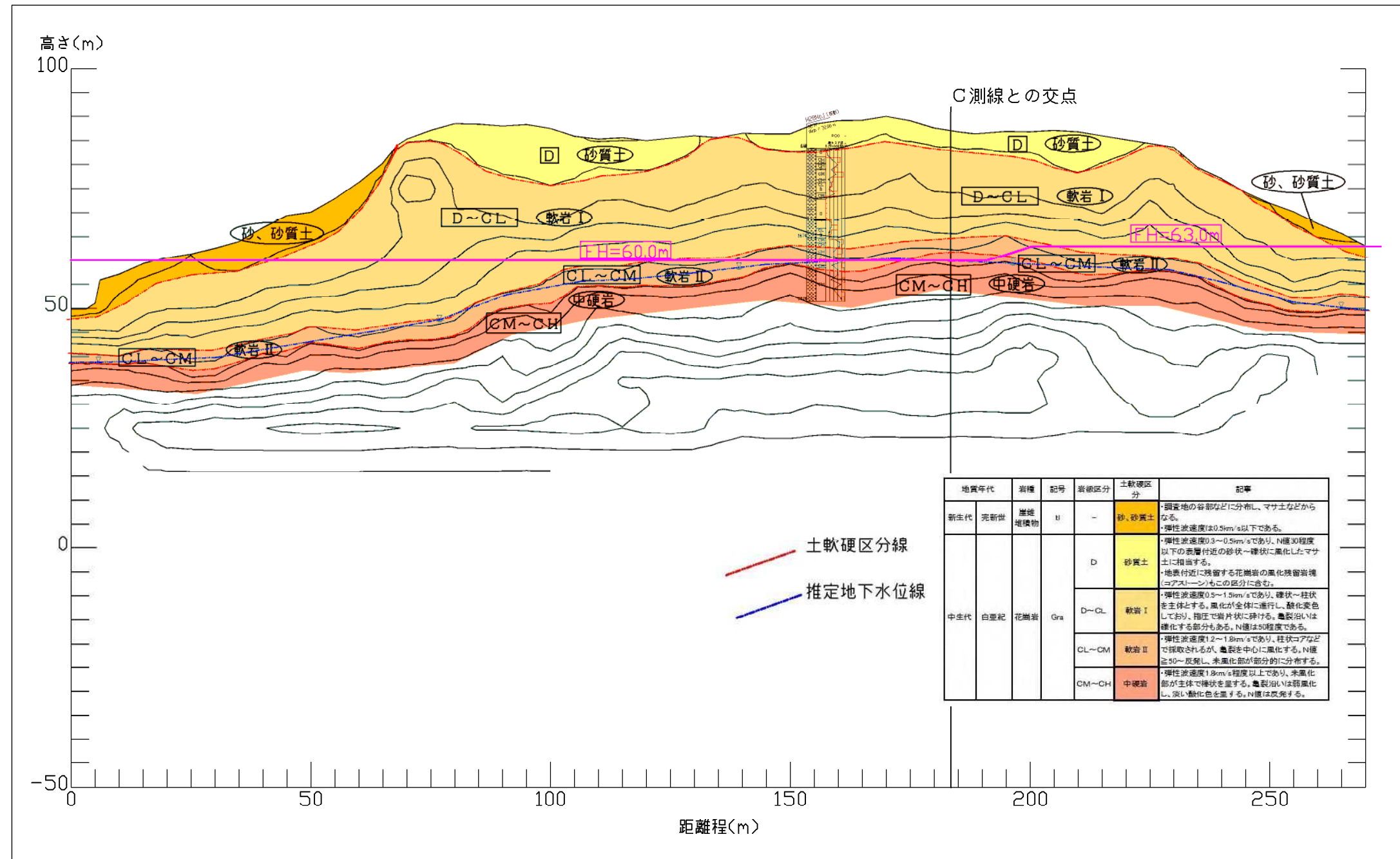
土軟硬断面図（A測線-1）



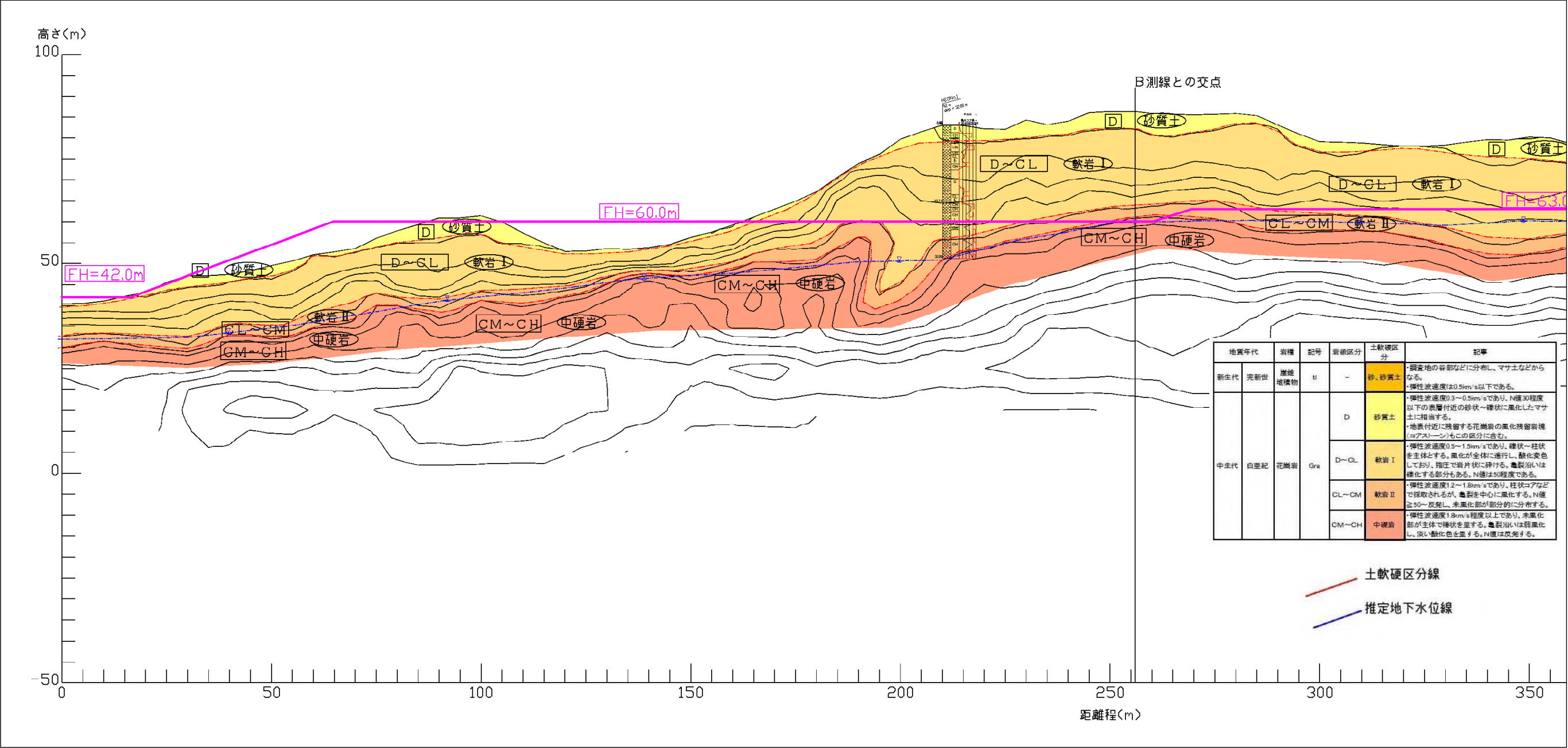
土軟硬断面図（A測線-2）



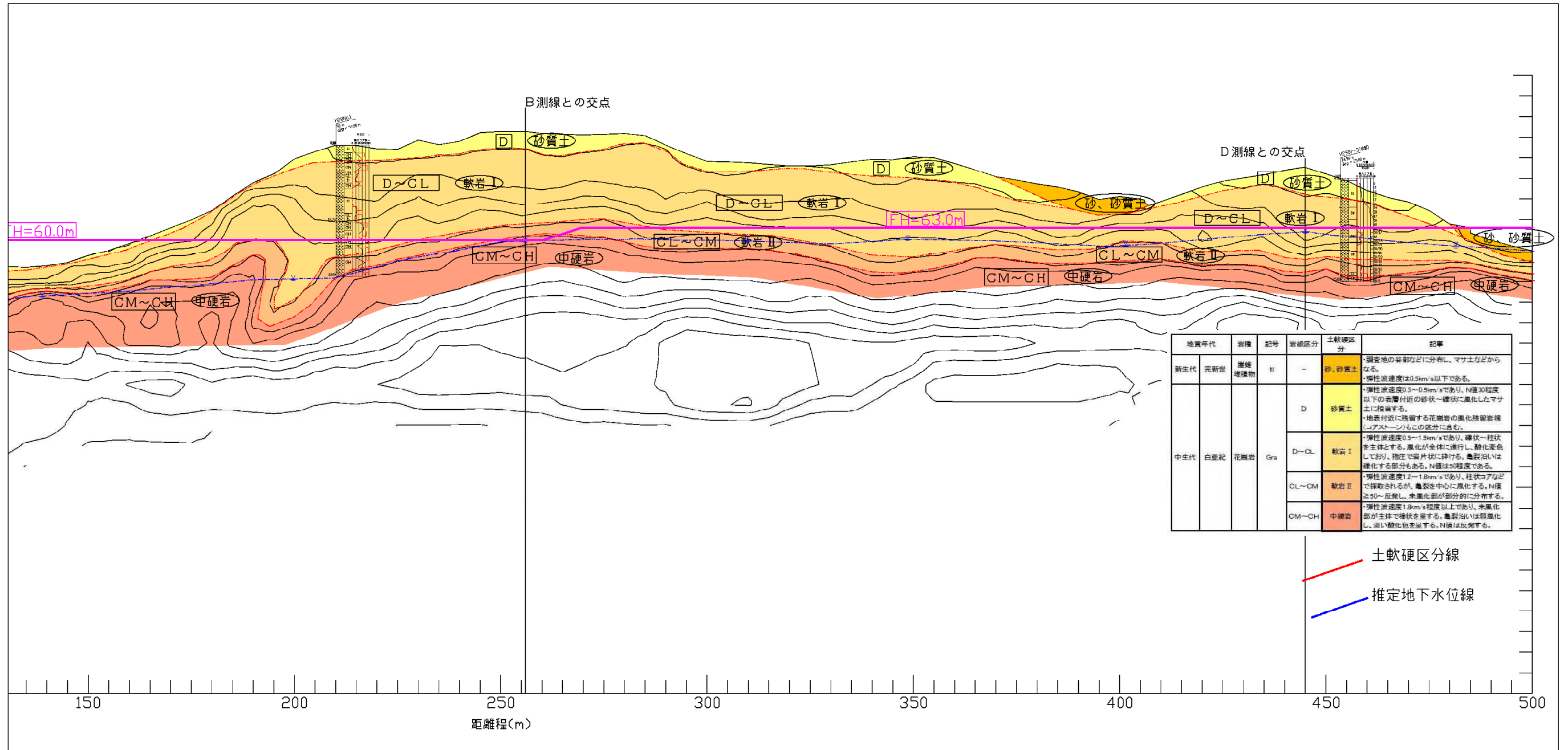
土軟硬断面図 (B測線)



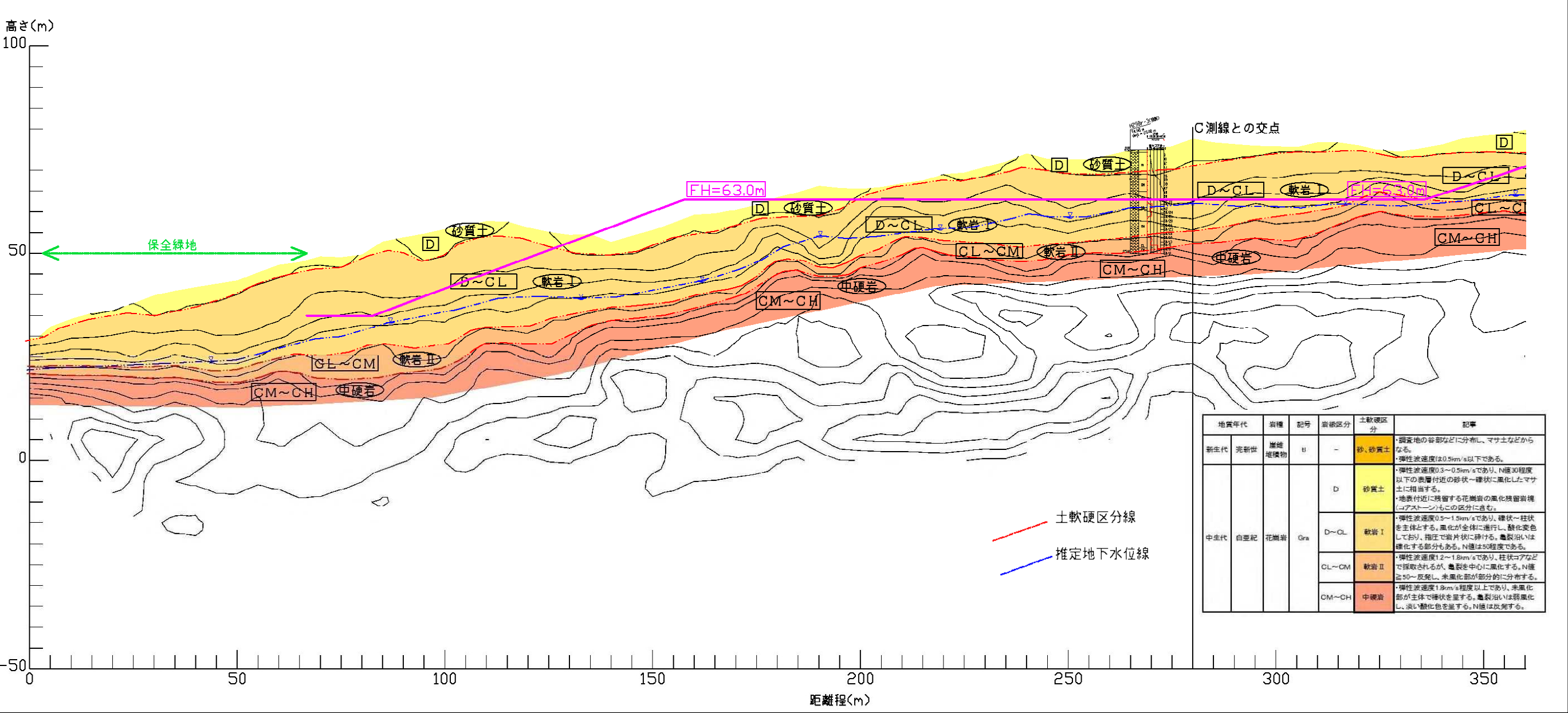
土軟硬断面図 (C測線-1)



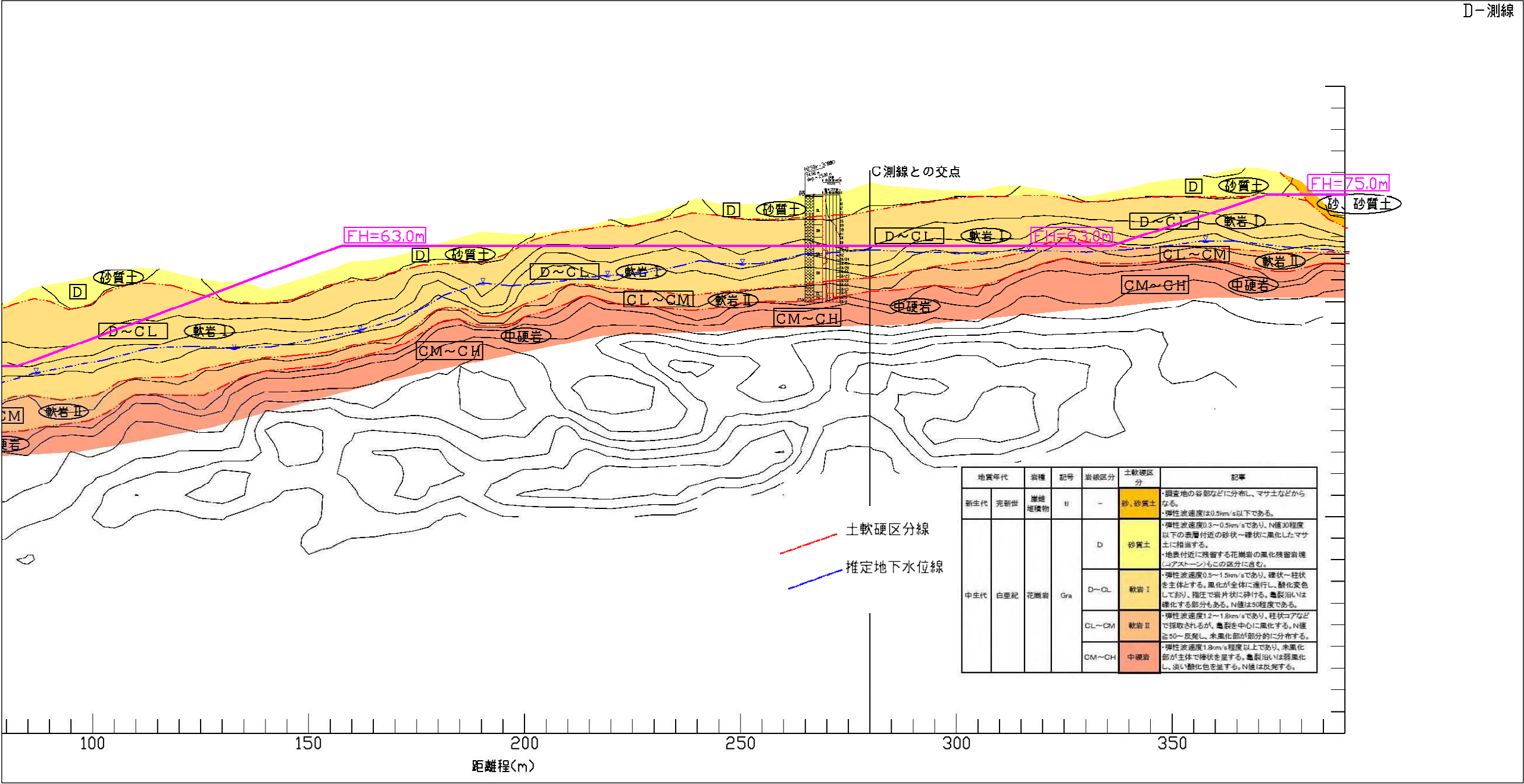
土軟硬断面図 (C測線-2)



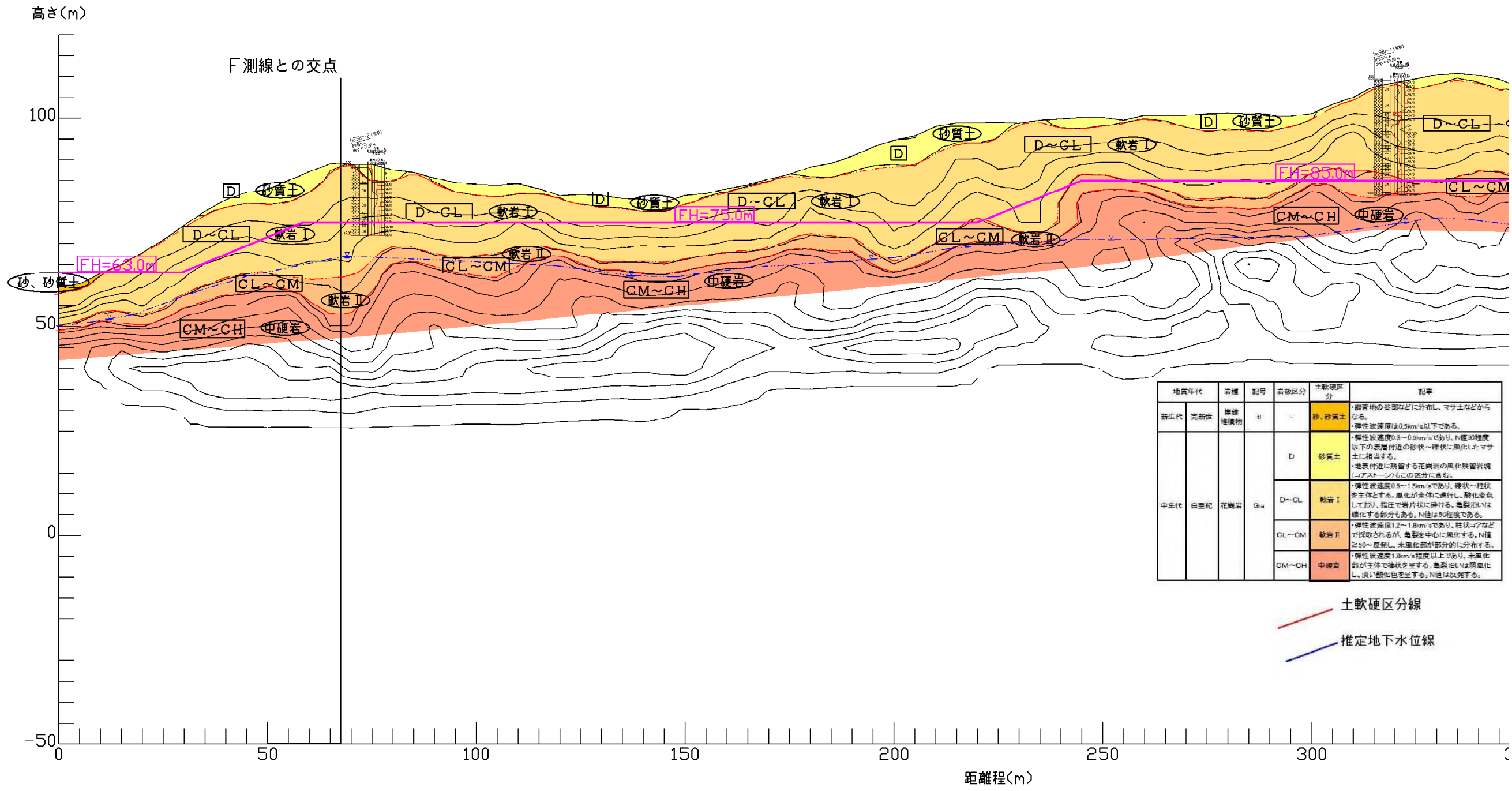
土軟硬断面図（D測線-1）



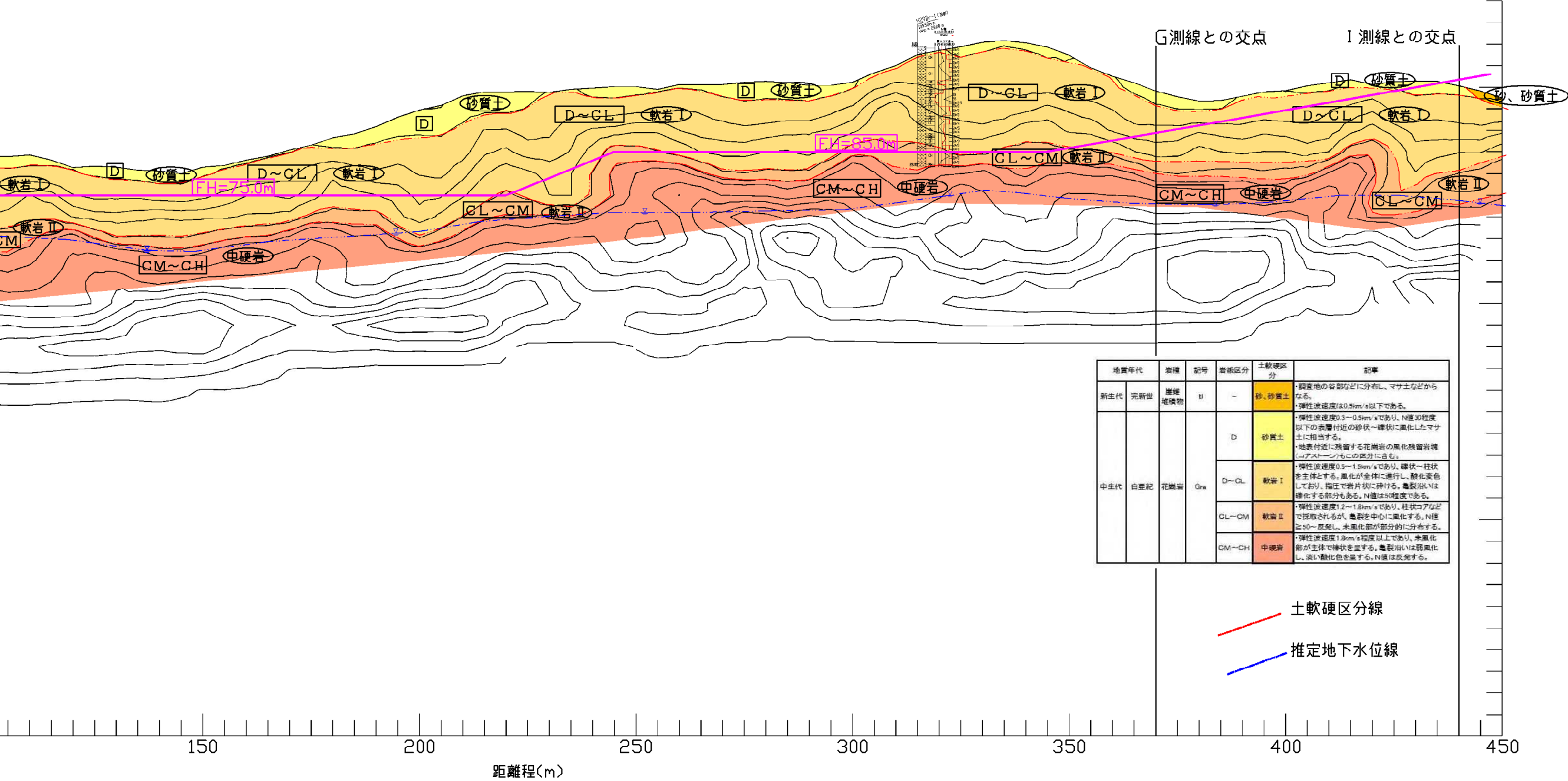
土軟硬断面図（D測線-2）



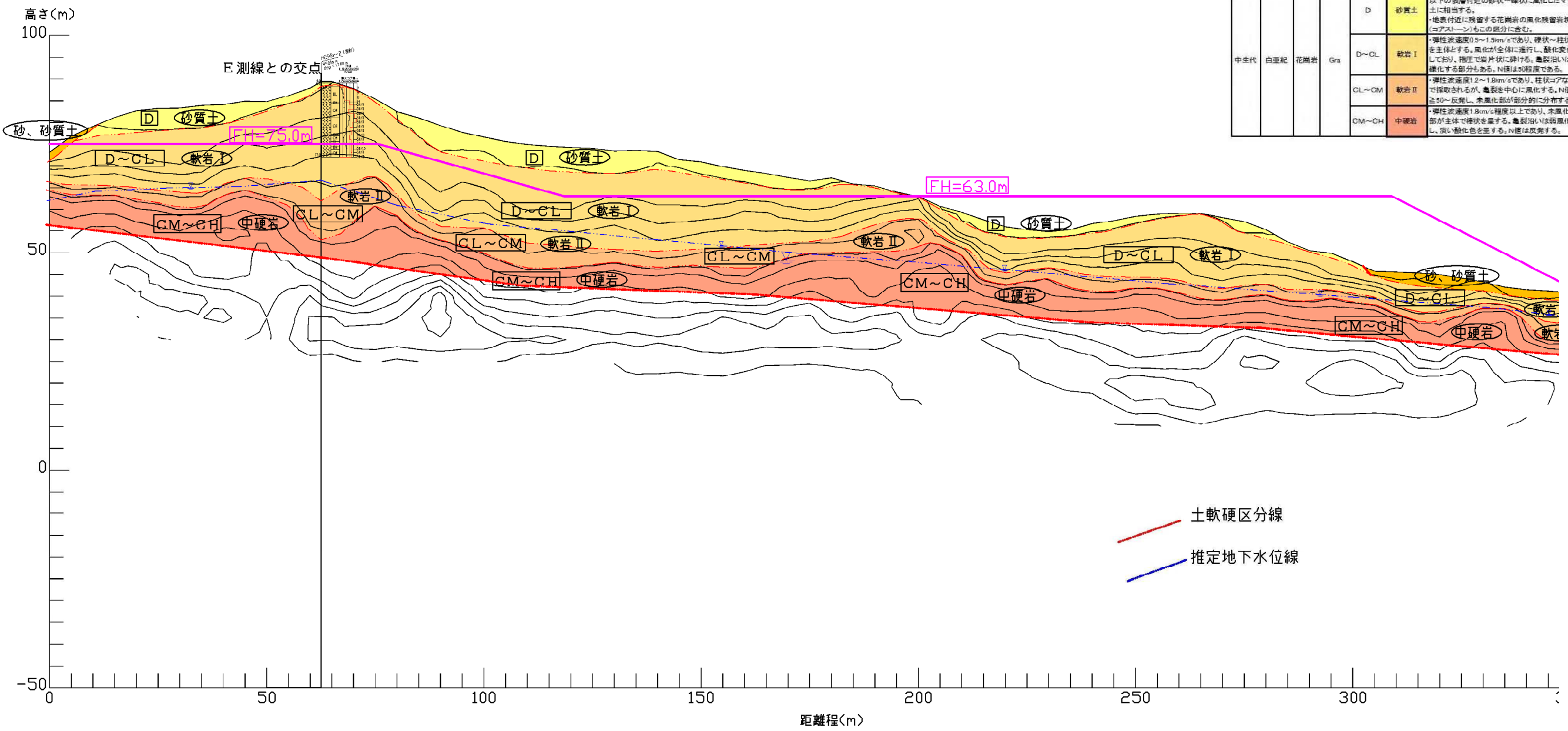
土軟硬断面図（E測線-1）



土軟硬断面図（E測線-2）

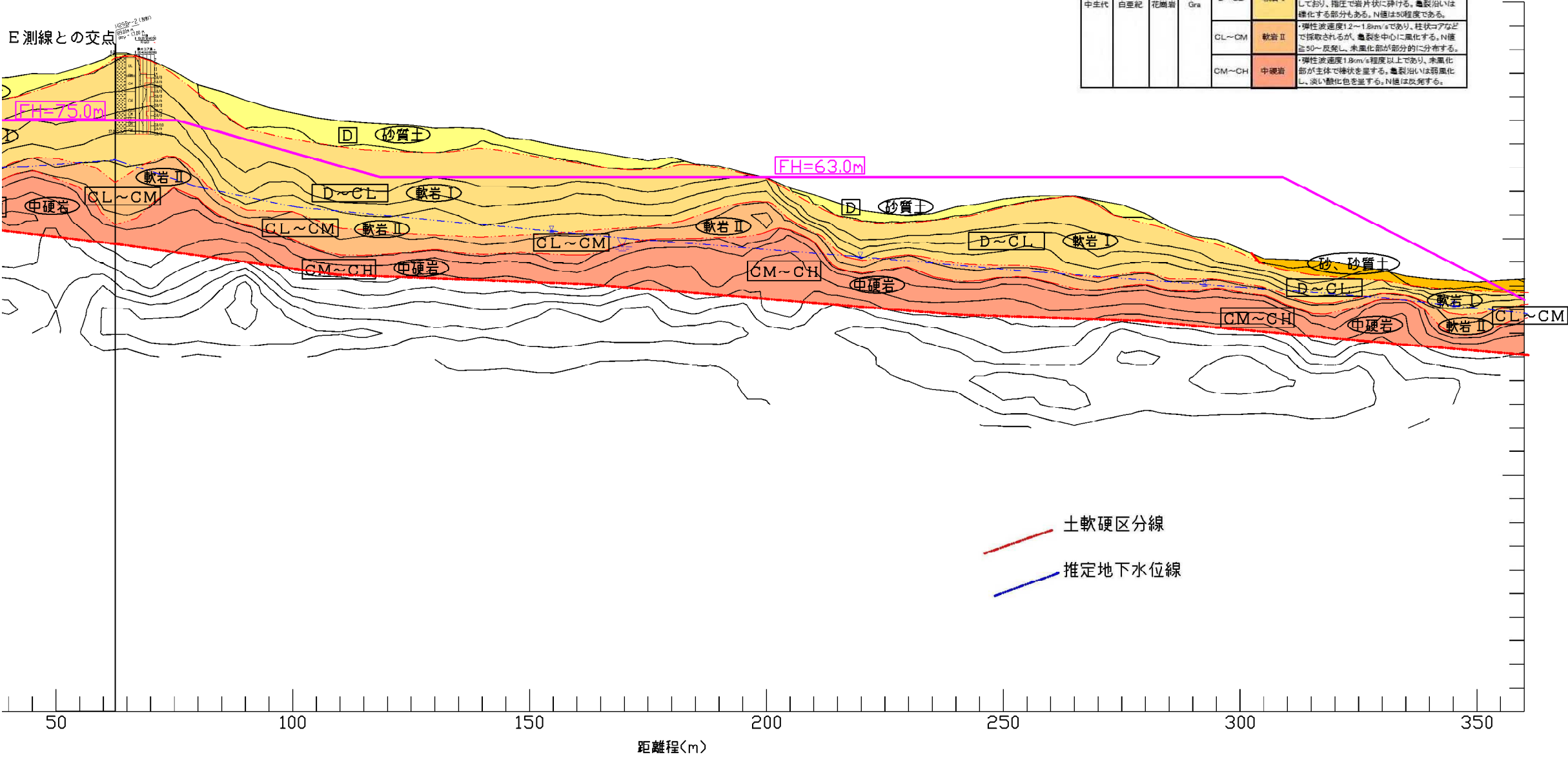


土軟硬断面図（F測線-1）

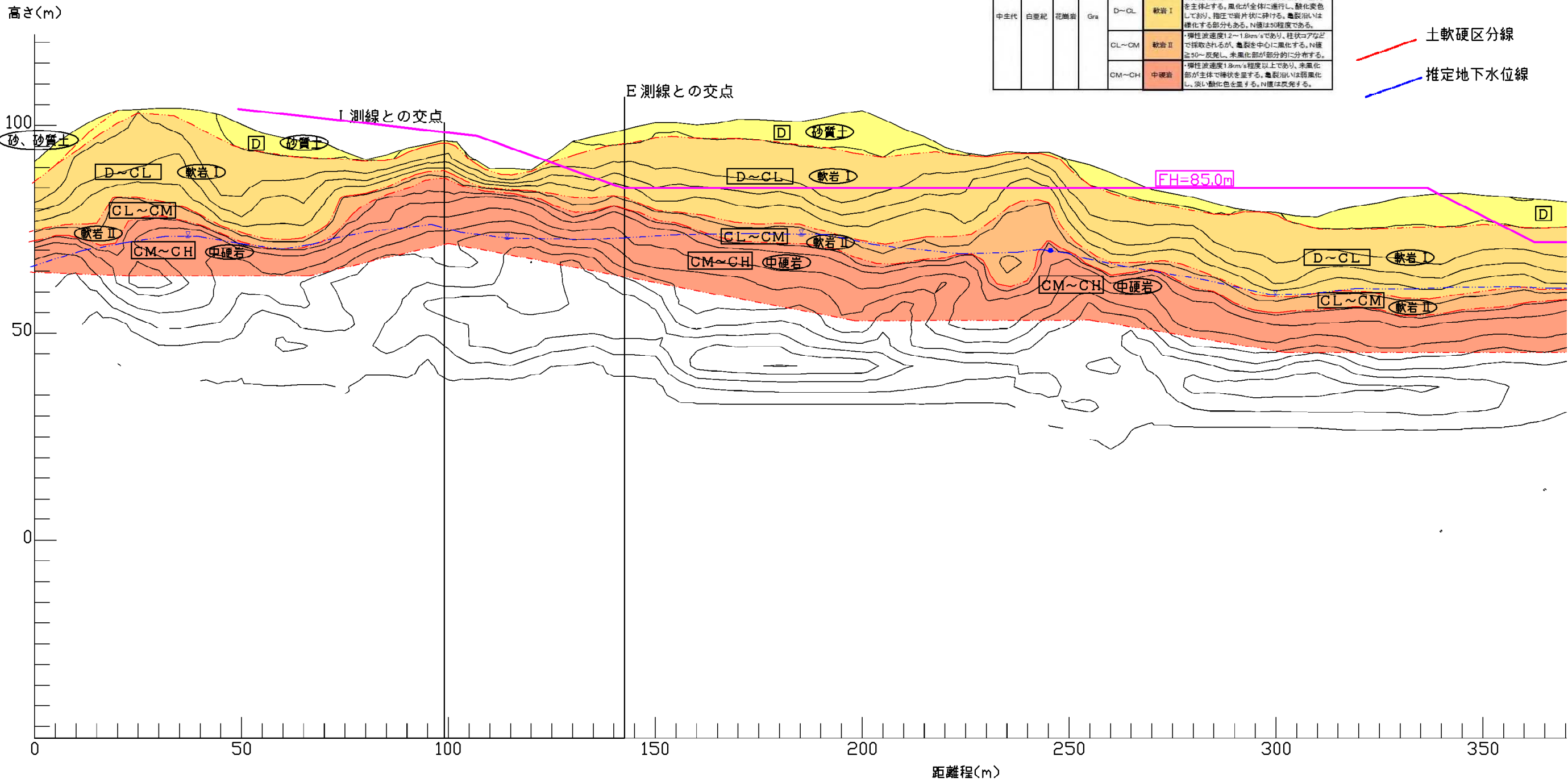


地質年代	岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	更新世	II	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5m/s以下である。
中生代	白亜紀	Gra	D	砂質土	・弾性波速度0.3～0.5m/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含まれる。
				軟岩 I	・弾性波速度0.5～1.5m/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				軟岩 II	・弾性波速度1.2～1.8m/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
				中硬岩	・弾性波速度1.8m/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、強い酸化変色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（F測線-2）

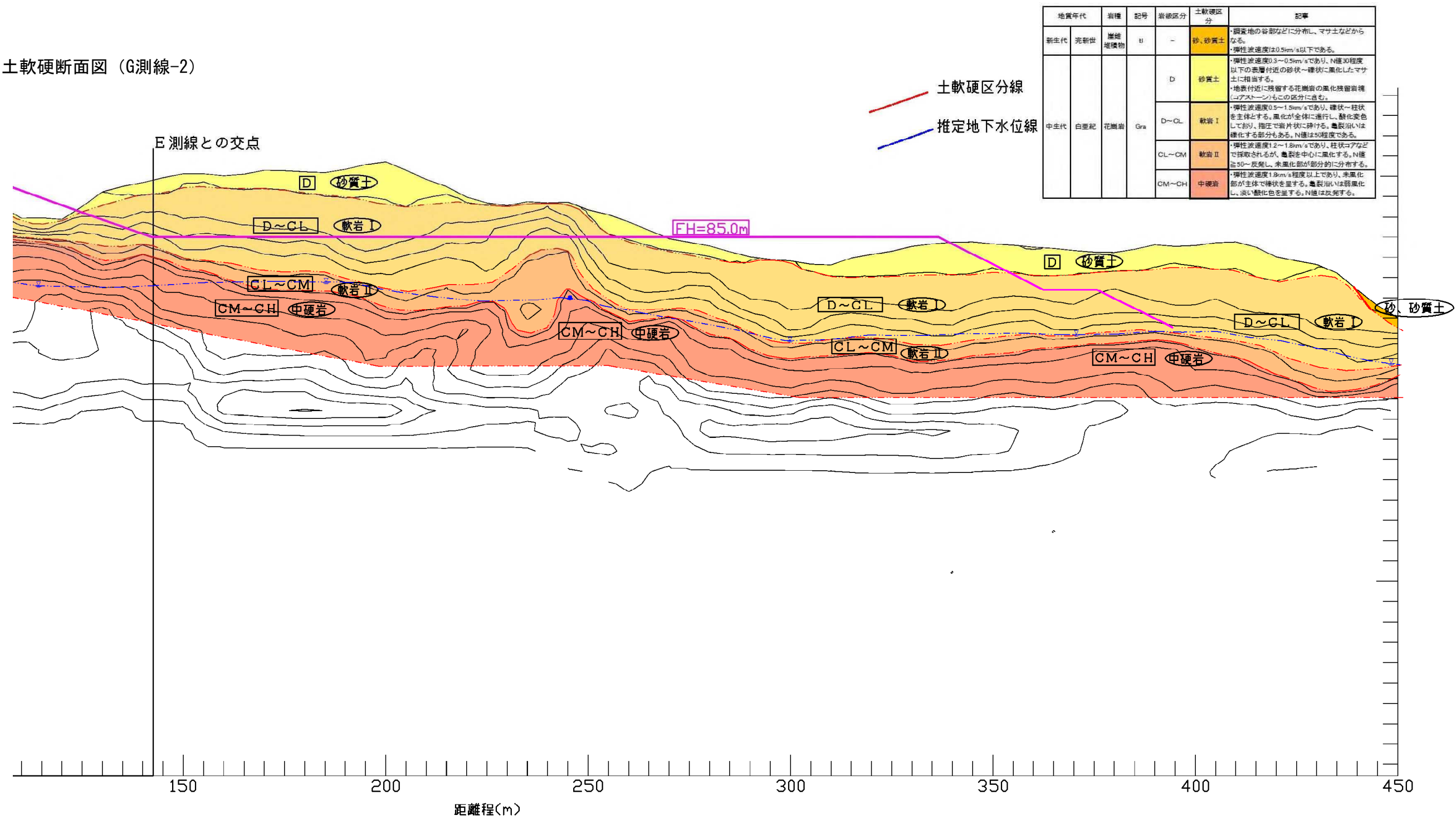


土軟硬断面図（G測線-1）

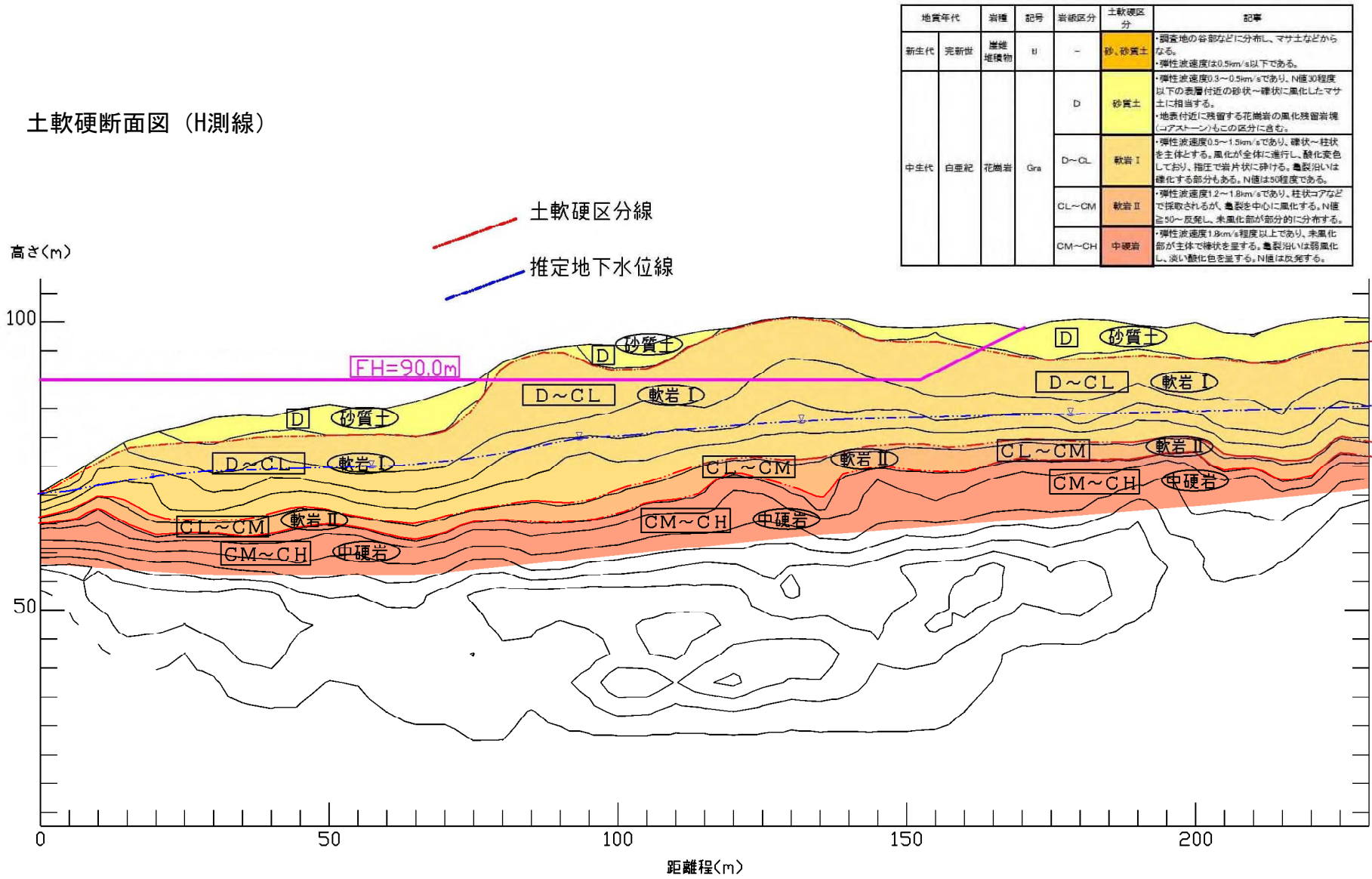


地質年代		岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖地 堆積物	U	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5m/s以下である。
					砂質土	・弾性波速度0.3~0.5m/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状~礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊(コアストーン)もこの区分に含まれる。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra		D~CL	・弾性波速度0.5~1.5m/sであり、礫状~柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、細粒で崩片状に砕ける。亀裂沿いNは硬化する部分もある。N値は50程度である。
					CL~CM	・弾性波速度1.2~1.8m/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50~反発し、未風化部が部分的に分布する。
					CM~CH	・弾性波速度1.8m/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いNは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図（G測線-2）

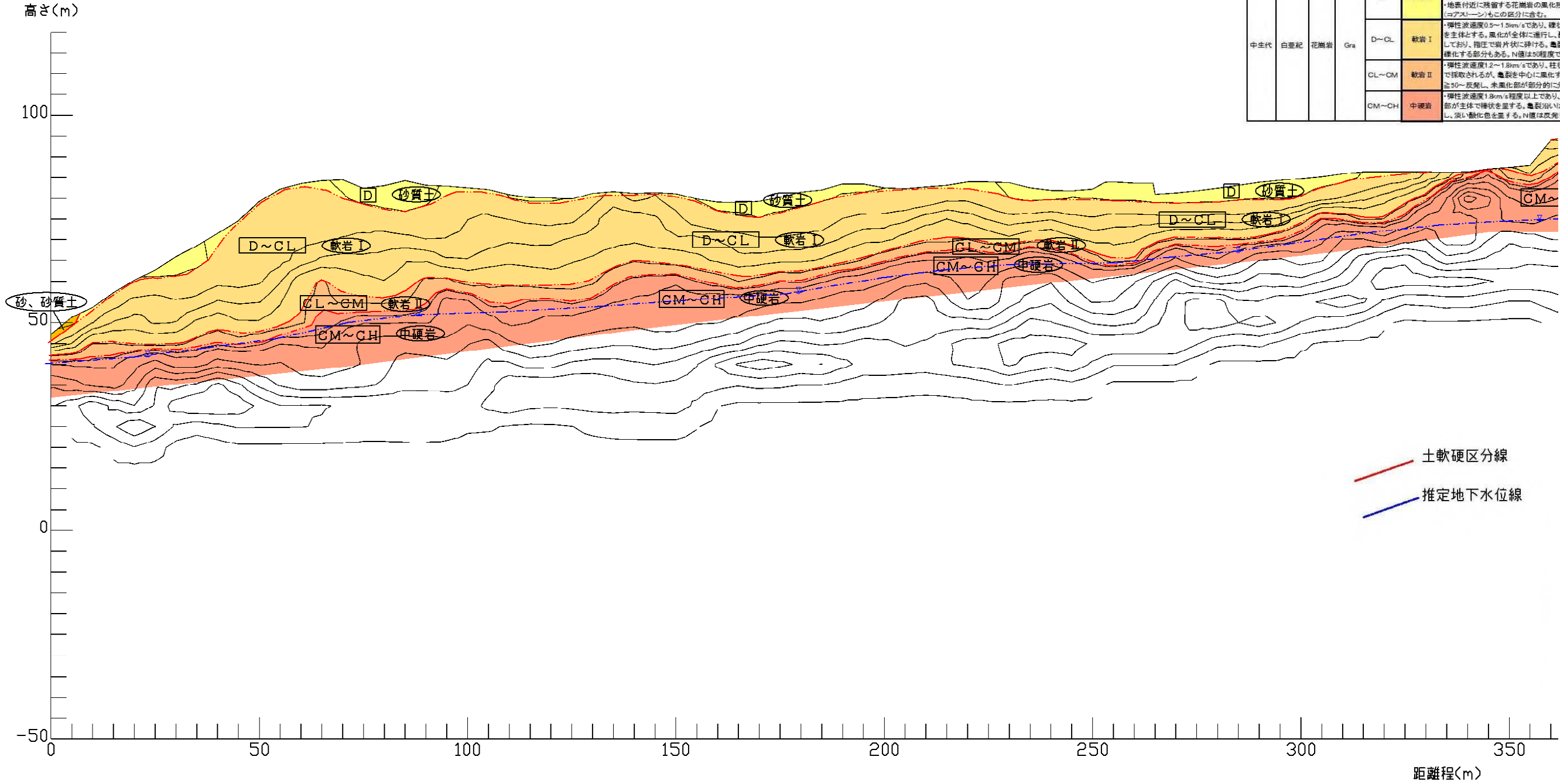


土軟硬断面図（H測線）



土軟硬断面図（I測線-1）

地質年代		岩種	記号	岩種区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖地堆積物	U	-	砂、砂質土	調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5km/s以下である。
					砂質土	・弾性波速度0.3～0.5km/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状～礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊（コアストーン）もこの区分に含む。
					軟岩Ⅰ	・弾性波速度0.5～1.5km/sであり、礫状～柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に碎ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
					軟岩Ⅱ	・弾性波速度1.2～1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50～反発し、未風化部が部分的に分布する。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D～CL	軟岩Ⅰ	・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。
				CL～CM	軟岩Ⅱ	
				CM～CH	中硬岩	



土軟硬断面図（I測線-2）

